

指定調査研究

貝類養殖漁場適正利用技術開発研究

－ホタテガイ養殖漁場利用技術研究－

(要 約)

関野 哲雄・高橋 克成・横山 勝幸・田中 俊輔・塩垣 優
小田切明久・直江 春三・永峰 文洋・三津谷 正

陸奥湾におけるホタテガイ養殖漁場の適正利用方式について技術的究明を行い、ホタテガイの安定的生産に資することを目的に、下記の試験・研究を実施した。本研究は昭和50年に起ったホタテガイ異常へい死を背景に進められ、へい死対策の確立をその目的としている。

I 実証試験

- 1) モデル養殖試験；養殖技術改良試験で検討した技術を採苗－中間育成－本養殖の一連の試験の中で実践し、その実用性を実証する。
本年度は現在考えられる最良の方法で予備試験を行なった。(継続中)
- 2) モニター試験；モデル養殖試験と同じ養殖方法を漁業者に実践させ、両者の比較を行った。
(継続中)

II 養殖技術改良試験

- 1) 養殖作業の検討；陸上作業時にホタテガイに与えられる酸素欠乏、空中露出、選別機の影響をへい死率、異常貝の出現率等で検討した。
- 2) 養殖方法の検討；養殖施設の振動、養殖カゴへの収容数、手入れ(船上作業)、カゴの目合と構造等の影響を成長と異常貝の出現率について検討した。(継続中)
- 3) 生理特性の検討；ホタテガイの定位行動を自然海底、水槽内、カゴ内について観察し、3者の特徴を明らかにした。
高水温と貧栄養の影響を検討した。

III 漁場環境条件調査

- 1) 海況自動観測；湾内の5基の観測ブイを利用し、陸奥湾内の環境条件を観測した。
- 2) 実証漁場環境調査；海水の水温、塩分、COD、DO、SS、クロロフィル、底質の硫化物、含泥率、強熱減量について実証漁場の環境を観測した。